NIE

年　組　名前

道新でワークシート

B 抜き「一番乗り」 旭岳初冠雪

3年ぶり、温暖化影響も

【旭岳温泉】道北に冬が来た―。4日午前に発表された大雪山系旭岳（2291㍍、東川町）の初冠雪は、富士山（3776㍍）の初冠雪より早く、初冠雪を観測している全国44の山で3年ぶりに「一番乗り」となった。一方、旭岳の初冠雪は近年10月以降に遅れることが続き、温暖化などの影響を指摘する声もある。

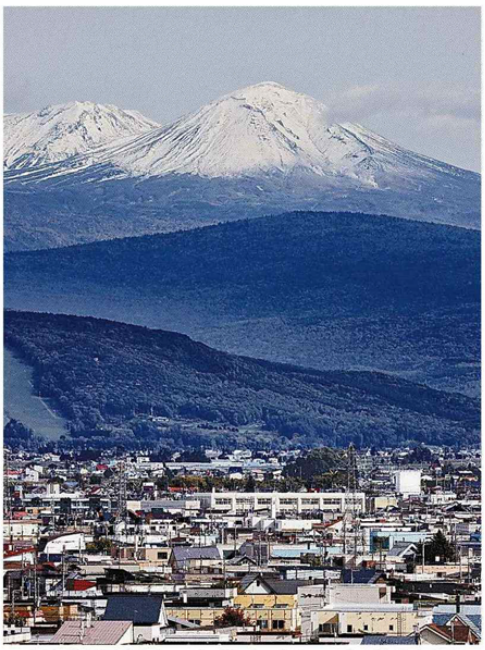
旭川地方気象台によると、旭岳の初冠雪は1888年（明治21年）から観測している。「山がよく見えない」などの理由で、観測できなかった年が3年間あるというが、それ以外は毎年調べて記録されている。

初冠雪の観測を毎年行っているのは、道内の7山を含む全国の44山。このうち旭岳は唯一、平年値が9月になっており、全国で初冠雪が一番早い。ただ、近年の初冠雪は22年の10月5日、21年の10月6日と10月にずれ込んいた。その結果、平年値が10月2日で両年は9月中だった富士山より初冠雪が遅くなっていた。

大雪山旭岳ロープウェイを運営するワカサリゾートの担当者も「富士山に先を越される年が続いていたのでうれしい」と話す。美瑛町などで山や丘の風景を毎日撮影している旭川市在住の写真家斎藤孝博さん（64）は「紅葉は遅く、秋がなかったような感覚もある。温暖化の影響だろうか」と心配していた。（後藤耕作）

旭岳の初冠雪日（旭川地方気象台調べ）

2023年	10月4日
22年	10月5日
21年	10月6日
20年	9月26日
19年	9月21日
18年	9月20日
17年	9月30日
16年	9月29日
15年	9月29日
14年	9月16日
13年	9月19日



山頂付近がすっかり白くなった道内最高峰の旭岳＝10月4日午後1時22分、旭川合同庁舎屋上から（西野正史撮影）

観測は職員の「A」

40キロ離れた気象台ビルから

4日初冠雪が確認された大雪山系旭岳。旭川地方気象台（旭川市宮前1の3）の観測方法は、気象台が入るビルからの職員による「目視」だ。同日、前日の厚い雲が晴れ、気象台からは雪化粧をした山頂が見えていた。

「きょう午前5時半ごろ、雲の切れ間から山の中腹に雪が積もっているのを職員が確認しました」。同気象台で観測を担当する主任技術専門官の小柳吉晴さん（53）が話した。気象台から約40キロ離れた大雪山系の山々は、頂上付近がすっかり真っ白だ。

観測は、気象台が入る旭川合同庁舎6階の窓か、屋上から行っている。双眼鏡も使うがあくまで補助用で「全国統一のやり方で、気象台建物など地上からの肉眼です」（小柳さん）という。旭岳の場合、山の上にロープウエー運行会社などのリアルタイムカメラもあって気象台職員も確認しているが、それも参考だ。

初冠雪は、「初氷」や「紅葉」のような気象台による季節の発表の一つ。初氷の象台敷地内の屋外に置いて、翌朝に調べる。紅葉の調査は、旭川市神楽岡公園内に生えている標本木のヤマモミジの葉を、同じく職員が目視する方法だ。

同気象台によると、今冬は道北も「暖冬」傾向の予報。冬型の気圧配置が弱く、寒気の影響を受けにくくなるという。天気予報が分かる11日までの間は平地での降雪はない見通し。「初雪」や「積雪の深さ」の観測は、気象台庁舎そばの屋外にある専用機器で実施する。

地道な目視の確認も欠かせない気象台による季節の発表。小柳さんは「道北の雪は世間からの注目度も高く、観測する側も身が引き締まる。タイヤ交換や衣替えなど、『これから冬だ』という暮らしの準備のために、発表が役立てばありがたい」と話している。（後藤耕作）

双眼鏡を手に、窓の外の山々の観測方法を説明する小柳吉晴さん

年　　組　　名前

道新でワークシート

① 記事の中の空欄Aに、最も適切な語句を漢字2字で、記事の中から抜き出して答えなさい。

② 記事の中の空欄Bに入る山の名前を、記事を読んで答えなさい。

③ 気象台から発表される情報は、自身の生活にどのように役立っていますか。
解答欄の【　　】に気象台から発表されている情報（この記事内の情報以外でも可）を答え、
その発表と自身の生活について50字程度で具体的に書きなさい。

気象台から発表される情報

【　　】

50